

テーマ3 子どもの権利条例をもっと生かす工夫

札幌市は、子どもが幸せに過ごすまちを目指し「子どもの最善の利益を実現するための権利条例（子どもの権利条例）」をつくり、子どもの意見をまちづくり生かす「子ども議会」などの取組を行ったり、いじめなどで苦しんでいる子どもを救うために「子どもアシストセンター」で相談にのったりしています。

しかし、子どもの権利条例のことや、子どもアシストセンターのことを知らない子どもも、まだまだたくさんいます。

特に考えてほしいポイント

子どもの権利条例をもっと生かして、子どもが幸せに過ごすまちを目指すために、子どもの権利の内容や子どもアシストセンターのことを多くの子どもに知ってもらうには、どうすればいいのでしょうか。

Cグループは、「テーマ3 子どもの権利条例をもっと生かす工夫」について話し合いました。

企画提案書のタイトルは、「子ども」や「からかう」などの意味を持つ「KID」という英単語を用い、「子どもだと思ってばかりにせず、きちんと意見をいわせてほしい」という意味を込め、「NOT KID」と名付けてくれました。

また、子どもの権利が尊重される環境づくりに大切なのは、まず、子どもたちが子どもの権利とは何かを知ること、さらに、子どもが意見を言える機会を設けることだという意見が多く出ました。

札幌市はこれまでも、様々な施策により、子どもの権利が尊重される環境づくりを進めてきました。また、子どもの権利条例の制定や子どもアシストセンターの設置、さらには、これらの広報パンフレットの作成など多くの場面で子どもの意見を聞く機会を設け、子どもの権利保障に向けた施策に、子どもの声を適切に反映させてきました。

今後も、企画提案書にある、「子どもの権利を知ってもらうこと」、「子どもが意見を言える場所を増やすこと」に努めながら、より一層子どもの権利が尊重される環境づくりに向けて、基本目標1 - 基本施策1「子どもの権利の推進」に取り組んでいきます。



企画提案書

NOT KID

提案趣旨

- ・ 子どもの権利条例を知ってもらう方法

Why?

- ・ 子どもの権利条例や子どもアシストセンターのことを知らない子どもが多いから。
- ・ パンフレット等を見ずにすぐ捨ててしまうから。
- ・ 子どもの幸せを実現するために。

企画の概要

幸せとは...

学校

- ・ いじめのない学校
- ・ 広くて遊びやすいグラウンド

家庭

- ・ 1人の時間
- ・ ヘルパー等がほしい

地域

- ・ 近所の交流
(例)
祭, 花火大会, フリーマーケット等

知ってもらうための工夫

- ・ 授業でビデオを見る。
- ・ 目につく所にポスターをはる。

子どもが意見をいえるための工夫

- ・ 子ども向けの会議
- ・ 公共的な場所へ目安箱の設置

大人へのメッセージ

子どもの意見を
決めつけないでほしい。

成果目標

- ・ 意見が言える場所がふえる。
- ・ 子どもの権利条例をみんなが知ってくれる。
- ・ 暮らしやすい札幌。

最終目標

- ・ みんなが幸せになれたらいい。